

2009年5月4日、土曜日
ナコンパトム、ブッダモントン国際会議場で開催される
国連ウェーサクの日祝祭の
国際仏教徒会議での
タイ国副首相
サナン・カジョーンプラサート陸軍少将
による
シリワンナワリー・ナリラタナ王女殿下への報告

タイ国政府、並びに、ここにおります仏教指導者、仏教信者とすべての方々を代表して、謹んで王女殿下にご報告申し上げます。私、タイ国副首相のサナン・カジョーンプラサート陸軍少将は、殿下が、2009年国連ウェーサクの日祝祭、国際仏教徒会議の開会を主宰するためにご臨席下さいましたことを深く感謝いたします。

この会議の歴史的背景をここで簡単に述べさせていただくことをお許し下さい。

1999年12月3日に、国連は、第54回総会において、毎年陰暦6月の満月の日が世界中の仏教徒にとって最も神聖な日であることを認知しました。これは、上座部仏教によると、仏陀が誕生され、悟りを開かれ、そして、パリニバーナ(涅槃)を達成された日でした。仏陀は、社会の平和と平穩のために、男性も女性も相互の親愛と寛容の心を持つことを教えられました。これらの信条は、国連憲章によっても謳われていることから、国連は、ウェーサクの日は世界にとって重要な日であることを宣言し、毎年5月に国連本部と他の国連事務所において祝祭をふさわしく行うように指示しました。

首相アピシット・ウェーチャーチーフ閣下が率いるタイ国政府は、国連によるウェーサクの日の認知は、仏教が、2500年以上昔から今日もなお続けている人類の精神的発展への貢献が認められたものであると信じております。それゆえ、タイ国政府はウェーサクの日の世界祝祭を主催したいと願い、マハチュラロンコーン仏教大学を主たるまとめ役として任命しました。

2009年5月4日から6日まで開かれるこの2009年国連ウェーサクの日、国際仏教徒会議には、タイ・サンガの大僧正執行委員会会長、大乘仏教サンガ、優れた高僧の方々、そして、僧侶や在家信者の代表達が世界80ヶ国から出席しております。参加者は、海外から1,250名、タイ国内から3,000名、合わせて4,250名です。この会議の目的は、仏法が世界にとって重要な教えであることを教育活動や式典や地域活動を通して共同で示すこと、タイ国内と世界各地の仏教団体や仏教組織の意志は一つにまとまっている、そしてそれはタイ国政府の希望と一致していることをはっきり示すこと、そして、タイの仏教芸術と文化を世界に示すことです。

それでは、このめでたい時に、2009年国連ウェーサクの日、国際仏教徒会議の主宰を、そして、大僧正聖下、並びに、世界の80ヶ国と様々な地域から来られたサンガ指導者の皆様への記念品の贈呈を殿下にお願いいたしたいと思っております。

歓迎のスピーチ

プラ・ダマコサジャン学長

ブッダモントン仏教センター、2009年5月4日

タイ国首相閣下、サナン・カチョアン・プラサート少将、敬愛するサンガの皆様、卓越したゲストの皆様、そして、ダルマに献身されている同朋の皆さん、タイ国でのウェーサクの祝賀とともに、ここブッタモントン・ホールで行なわれるこの神聖で重要な会議に参加されておられる皆様方を、組織委員会を代表して歓迎いたします。

皆様ご存知のように、祝賀は昨年ベトナムで行なわれましたが、それを除き5年間タイで祝賀が行なわれております。今年の祝賀の運営の中心となったのは、勿論、私の大学、王立マハチュラロンコーン大学です。私たちは、タイ仏教局、国連ウェーサクの日国際評議会(ICUNDV)と密接に協力しながら活動しました。

昨年のベトナムでの祝賀の後、ウェーサクの日祝賀の国際組織委員会(IOC)は、自らの組織に法的な地位を与えることにいたしました。私たちは、国連と協力し合って私たちの目標に向かって活動していくための経験を十分に積んだのです。タイ文化省が私たちの組織、ICUNDV、国連ウェーサクの日国際評議会を法人として登録したことを、ここにつつしんで皆様にご報告申し上げます。

私たちは、二つの目的に向かって熱心に活動していく基盤となります。新しく生まれた私たちの組織の機能は、第一に、毎年行なわれるウェーサクの祝賀のコーディネイトをすることであり、祝賀の間になされた決定や決議を実行することです。

私たちが一緒にやりたいと思っていることを実行するためには、私達を代表する何らかの機関が必要です。今、私たちにはこの組織があり、ICUNDV という名前で皆さんのためにタイで活動いたします。

この ICUNDV に望んでいるもう一つの機能は、私たちの祝賀と国連との間をつなぐことです。私たちは今、大乘仏教、上座部仏教、密教それぞれの仏教徒の皆さんとここに一緒におります。頭文字で言えば、大乘仏教(Mahayana)の M、上座部仏教(Theravada)の T、密教(Vijrayana)の V で MTV となりますが、MTV がここでこうして一緒にウェーサクの日をお祝いできるのは、国連がウェーサクの日を認めてくださったからに他なりません。国連によるウェーサクの日の認知がなければ、ウェーサクの日をこのような形でお祝いすることはできなかったことでしょう。

私たちは、仏陀の業績を、二千年以上にわたり仏陀が世界に行なってきた貢献を、1999年に国連総会が認めてくださったことに感謝しております。このような次第で、国連が認知してくださったお陰で、私たちはここに一緒に集まることができ、釈迦牟尼、仏陀の誕生、覚醒、涅槃を一緒にお祝いしているのです。

このことを常に心に抱きながら、私たちは国連に協力してまいります。仏教の目標は、世界に平和をもたらすことです。“ナッティ・サンティ・パラシ・スカン”、「平和以上の大きな喜びはない」、これは仏陀の言葉です。国連の目標は、世界を平和にすることです。私たちは同じ目標を共有しているのです。

私たちはまた、ユネスコという世界機関と密接な協力をしながら活動することができます。ユネスコ（憲章）の前文を引用させていただきたいと思います：「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

我が国が政治的に不安定な時期にも拘らず、本会に参加するためにバンコクにお集まり頂いた皆さんに再び御礼申し上げます。皆さんが参加して下さったことはタイ国民にとって本当に励みとなり、我が国は皆さんからお言葉を頂くことで正常に復帰することができるでしょう。

本会の主催者として、我々は全力を挙げて討論の場を提供させていただきます。本日はプッタモントンにおいて、「世界的危機に対する仏教徒のアプローチ」という今年度会議の主要テーマに関する仏教指導者や学者の皆さんのスピーチを拝聴させていただきます。明日はMCU本校キャンパスに会議場所を移し、六つの討論グループに分かれて環境・経済・政治の危機への対応について討論して頂きます。共通仏教テキストと仏教電子リソースについても更なる協力関係を築くことができるよう期待します。国際仏教大学協会（IABU）のワークショップにおいて共同作業を継続するために各仏教大学から学長、理事長、研究者の方々を御招待しています。

さあ、討論の場は皆さんのものです。本会議の成否は皆さんの貴重な貢献に懸かっています。本会議の主要コーディネーターとして我々は偉大な成功のために本会議のお手伝いをする準備を整えています。

重ねて申し上げます。お忙しい中、本会に世界80か国からお集まり頂きました1300人の代表およびオブザーバーの皆さんに心から感謝申し上げます。興味深く、刺激的な討論が行われ、知識を共有できる実り多い一日になりますことを期待致します。

御参加、御協力、御貢献、有難うございます。

《スピーチ》

西暦 2009 年 / 仏暦 2552 年 5 月 6 日
国連アジア太平洋センター本会議場
プラ・ダマコサジャン博士



聖下、閣下、卓越したゲストの皆様、そして、友人の皆さん

過去5、6年、バンコクの国連アジア太平洋経済社会委員会 (NNECAP) 会議センターと一緒にウェーサクの日をお祝いしてきましたが、また再び皆さんとここに戻ってまいりました。

私たちがここにこのように再び集まることができるのは、1999 年に国連でウェーサクの日が認められ、仏教徒が、ニューヨークの国連本部にある国連の施設、および、世界各地の国連事務所を利用することが国連決議で認められたからです。

このような次第で、国連ウェーサクの日の事務局長の認可を受けて、バンコクの国連アジア太平洋経済社会委員会のこの会議センターを使うことが許されています。国連アジア太平洋経済社会委員会の事務局長の寛大な配慮のお陰でここにこうして集まることができています。私は、ご来賓の皆様方、聖下、閣下、友人の皆さんを心より歓迎いたします。タイ国のバンコクでこのようにウェーサクの日をお祝いできるのは、タイ王室政府の寛大なご支援のお陰です。タイ国王室政府は、第 1 回目以来、変わらず私達を支援して下さい、今回も首相ご自身が支援して下さいました。

《スピーチ》

西暦 2009 年 / 仏暦 2552 年 5 月 6 日
国連アジア太平洋センター本会議場

アピシット タイ首相スピーチ



聖下、サンガの最高尊師、尊敬するマハチュラロンコーン大学学長、ウェーサクの日事務局長、閣下、卓越した参加者の皆様、2009 年国連ウェーサクの日をここで皆様方とお祝いできることはこの上ない喜びです。

ウェーサクの日は、タイ国ではウィサカ・プージャ(仏誕節)と呼ばれておりますが、仏教の伝統の中で最も重要な日の一つです。陰暦 6 月の満月の日であるこの日は、仏陀の誕生、覚醒、涅槃を記念する日として、毎年、世界中でお祝いされています。仏陀は、覚醒された後、45 年もの間インド各地を旅し、あらゆる層の人々に教えをお説きになられました。仏教はその後、インド亜大陸を越えてアジア各地に広がり、2,500 年以上にわたって人々の精神生活を高め豊かにすることに貢献しています。

仏陀のこの貢献を認めて、国連総会は、1999 年の第 54 回総会において、国連ウェーサクの日を敬意を持ってお祝いすることを公式に決議し、それ以来、ウェーサクの日は、ニューヨークの国連本部、および、各地の国連事務所においてお祝いされています。

今年は、国連総会においてウェーサクの日を支持する決議が行なわれてから 10 年目に当たる特に重要な年です。それに加えて、タイ国は、国連ウェーサクの日に合わせて行なわれる国際仏教会議の主催国を 2004 年と 2007 年に務めました。今年再び主催国に選ばれるという名誉を得ました。

今年は世界のおよそ 80 カ国から、仏教指導者、仏教学者の皆様方をはじめ、多くの方々が参加されております。タイ王室政府、そしてタイ国民を代表して、今回のウェーサクの日が成功する

ように努力された皆様方、様々な機関、特にマハチュラロンコーン大学に感謝したいと思います。

私たちの今日の集まりが、仏陀の慈悲に満ちた光を見る機会となるだけでなく、極端を避け、理にかなうこと、自己認識を大切にする、仏陀の中道という素晴らしい教えについて深く考える機会となることを強く希望します。

仏陀は、さらに、慈悲について、共通の目的に向かって知識を生かすことについて、忍耐を持ち他の人々に敬意を払うことについても教えられました。こうした根本的な教えは時間を越え、今日の世界においてますます重要性を増しています。

仏陀の中道の教えに従うことで、持続可能な永続する平和への道が見えてきます。さらには、心の中が平和になり純化された人々は、生きることにおけるあらゆる問題と危機を解決できるようになります。

近代の科学技術により今日の世界は大きく進歩したにもかかわらず、いまだに世界の多くの地域で人々が苦しんでいます。私たちは平和共存、繁栄、幸福を希望し望んでいるにもかかわらず、貧困、テロリズム、環境の悪化、自然災害、内戦、動乱、そして現在の世界的な経済危機のような問題はおなじみの問題であり、何度となく繰り返されてきました。

こうした問題は、程度の大小はあれ、多くの人々の間に悲嘆、喪失、怒りを生み出してきました。しかし、もし私たちが仏陀の教えに謙虚に従うなら、慈悲、忍耐、許す心をお互いに持つなら、そしてそれにより憎しみ、嫉妬、エゴ、暴力を抑えるなら、こうした問題もいつか必ず克服できる、と信じています。

数多くの世界規模の難問に直面している今この時、特に、政治的紛争、経済的成長への努力や野心、多様な人々や民族が共に暮らす社会など、様々な形の極端から生まれてきた世界規模の難問に直面している今この時、仏陀の教え、ことに仏陀の中道の教えは、これまで以上に今日的な重要性を持っています。

経済的、政治的、社会的に非常に困難なこの時代にあって、タイ国を含め多くの国がこれらの問題を克服しようと努力していますが、もし国民が仏陀の教えに従い、自らの内に平和を求め、自分たちの個々の問題を克服する智慧を自らの内に求めるなら、その取り組みははるかに容易

なものとなります。

私たちは皆、自らの内に英雄を見出す、というダルマコサジャルン学長の言葉のとおり、私たちは皆、世界中の多くの人々が長い間待っている様々な問題の解決に貢献することができます。

皆様ご存知のように、仏陀が涅槃に入られてから 2,488 年たった 1945 年に設立された国連はこの世界で平和を維持することを目指しており、国連憲章に書かれている国連の基本的原理は仏陀の教えと大きく違ってはおりません。

平和、持続可能な発展、人間の権利の尊重は国連の 3 つの主要な柱ですが、仏教はそのいずれについても、根本となる考えを持っています。実際、国連の憲章と仏教の実践的原理を比較すると、様々な共通点が見出されます。この両者が力を合わせるなら、平和な生活と共存、すなわち、平和な世界が実現されることでしょう。

最後にもう一度、仏陀、そして、仏陀の教えにこのように敬意を払う機会を得ましたことに対して、国連、組織委員会、このイベントの成功に尽力された皆様に心よりの感謝を申し上げたいと思います。

今日のこのイベントが、仏教徒だけでなく非仏教徒にも意味のある仏教に対する理解と感謝を拓けることにつながり、この世界での平和実現に、この世界をより良い場所にするにさらに貢献することを希望します。

私たち全てに三宝の恵があり、私たちの生活が平和で幸せで成功に満ちたものになりますように。

《スピーチ》

西暦 2009 年 / 仏暦 2552 年 5 月 6 日

国連アジア太平洋センター本会議場

世界危機への仏教徒の提言

世界連邦日本仏教徒協議会
会長 叡南 覚範

第 6 回国連ウエーサクの祝祭にお招きを頂きましたことをこの上なく光栄に存じております。



タイ仏教僧団を代表されるプラ・プッタチャン大僧正、マハチュラ大学長兼ウエーサクの日国際委員会会長・プラ・ダマコサジャン尊師、タイ国政府、並びに世界各地からお集まりの仏教指導者の皆様に心から感謝の意を表します。

世界が変わると言います。新しい 21 世紀の幕がようやく上がり、キリスト教徒はミレニアム（キリスト再臨の千年）とっています。

イギリスの経済学者であり、道徳哲学者でもあったアダム・スミスは 1778 年「国富論」を發表し、絶対王制期の足かせとなっていた経済活動に対する国家統制を取り除くレッセ・ヘール（自由放任）を提唱し、自由市場の基（もと）を築きました。

だが、アダム・スミスはその前年に「道徳情操論」を著し、有名な『神の見えざる手』を示唆しています。

聖書に次のような神の怒りの言葉が記されています。
主はモーゼに言われた。「主の手が短いというのか。私の言葉どおりになるかならないか、今あなたに見せよう。」モーゼは主の言葉を民に告げた。（民数記 11. 23）

クライシス（危機）は聖書の民には神の審判と映るようです。この度の世界の危機はこの暗い背信から始まっていたように思われます。

日本では鎌倉時代に親鸞聖人(1173-1262)は諸先達の教えを「自然みずからというは、自
はをのづからという、行者のはからいにあらず、然しかりというはしからしむというこ
とばなり」と申されて自然じねんほうに法爾の道理を説かれ、私たち仏教徒は生きとし生ける全
てのものと生命をひとつに結んで、喜びも苦しみも分かちあう共生ともいき(symbiosis)のビ
ジョンを心に深く念じております。

賢者は歴史に学ぶと言います。今日、世界諸国家の財政は崩壊しようとしていま
す。戦争は異なる手段をもってする政治の継続であると言いますが、私たちは断じ
て人類破滅の戦争への道を選んでではありません。

しかし、諸国家が保有する膨大な軍事費が私たちの行く道を阻んでいます。
そこで、私は敢て今ここに『すべての核兵器の廃絶と軍備の縮小』を提案いたしま
す。私たち仏教徒は、百年に一度といわれるこの逆境を転じて、千載一遇の好機に
変える知恵と勇気を持っております。

私はこの提言が世界の全仏教徒の声として、諸国家の多くの指導者の心に確かに
届くことを念願し、マイトレーヤ・弥勒菩薩の『考える手』を差しのべたいのです。

最後に、私たちが敬愛してやまないインドのマハトマ・ガンジー翁が、かつて私
たち日本民族に送られたメッセージの一文を読ませていただきます。

「世界に激変が起こった。原子爆弾は私の信仰を爆破してしまわなかった。それ
は爆破されなかったのみではない。真実と非殺生(ahimsa)と言うこの双生児こそが
世界において最も強大な力であることが、いっそう明らかになった。」 1946年2
月10日付に「原子爆弾」と題して週刊誌ハリジャンに掲載されました。日本が人類
最初の原子爆弾の被爆国となった6ヵ月後のことです。戦いに破れてドン底にいた
私たち日本民族が、このガンジー翁の励ましによってどれだけ蘇ったか、はかり知
れません。深謝の限りであります。

合掌

< 註 >

- ADAM SMITH : アダム・スミス
- WEALTH OF NATIONS : 国富論
- MAITREYA : 弥勒菩薩
- SVABHAVA : 自然法爾
-

穏やかな心、平和な生活 あなたもできる



最初に、ご招待下さったタイのマハチュラロンコーン仏教大学のご親切にお礼を申し上げます。法鼓山の果東僧院長の代理として、私は、法鼓山の2009年度のテーマである『穏やかな心、平和な生活、あなたもできる』を、この場で皆様と分かち合いたいと思います。また、ヴィサカ・ブージャの祝祭の功德がタイ国王プミポン・アドゥンラヤデート陛下の上にありますように、そして陛下が長生きなさいますようにお祈りいたします。

法鼓山の創始者である聖巖法師は、過去20年間、台湾国内と海外で、『心の環境を守る』という提言をなされ続けました。聖巖法師は、総合的な教育を促進し、人々に愛情のこもった世話を差し伸べることによって、人間の性質を高め、地上に浄土を建設し、世界を浄めることに携わってこられました。『世界危機への仏教の取り組み』という会議のテーマに関連して、法鼓山は、『人間の心を浄め、世界を浄める』という聖巖法師がたてられた偉大なる誓いを成就するために、『穏やかな心、平和な生活、あなたもできる』を2009年度の私どものテーマとしております。

2007年にアメリカでサブプライムローン危機が発生して以来、世界は金融津波に襲われ、人々は大惨事の発生に怯えております。かくして、聖巖法師は、2009年の初頭に、私達は、心の五・四運動(the fivefold spiritual renaissance)によって肉体と精神を落ち着かせるべきである、と語られました。師は、次のように主張されました：「私達は自分自身を信頼し、未来に希望を抱くべきである。そうすれば、たとえ物質的な状況が悪化しても、たとえ外的環境が不安定になっても、私達の心は堅固なままでいられるだろう。」「激しい雨が降る日に、あなたは、雨は必ず止むと言う。風が吹く日に、あなたは、風は必ずその向きを変えと言う。空に夕闇が広がると、あなたは、次の朝には必ず夜明けが来ると言う。これらがあなたの心にある希望である。希望があるところには平和があり、そして、未来がある。」このようにして『穏やかな心、平和な生活』は私達の日常生活において実現されるのです。これは、仏教の因果律、因縁から得られた智恵です。

もしも、より多くの人々が仏陀の智恵と慈悲を広めることができれば、そして、より多くの人々が仏陀のダルマ(法)を活用することができれば、世界の危機を転換点に変えることができます。人々の心が平和になることができれば、その時、世界は平和になることができます。それゆえ、仏教徒として私は、私達全員が、心を安定させ、そして、私達を取り巻く世界を安定させられる一つの力となることに専心できることを願います。

最後に、皆様のご清聴に感謝いたし、皆様方の『穏やかな心、平和な生活』とご健康を、そして、楽しい滞在をお祈りいたします。

グオフエイ、法鼓山、副僧院長

スピーチ

浅川重美氏、ITRI日本センター会長

2009年5月6日、国連アジア太平洋センター本会議場

本日は国連アジア太平洋センターにて盛大なウェーサクの式典が行われ、たくさんの方から大きな支持を得られましたことを本当に感謝申し上げます。



1999年に国連にお釈迦様の生誕祭が承認され、2004年に世界で始めて仏教徒の世界会議がタイで開催されました。これで6回目となりますが、すべて大きな成果をあげており私たちも参加させていただいたことに感謝しております。

そして、本日学長様がウェーサク式典の責任者としてタイ国から指名されたことも大変うれしく感じました。

アピシット首相がすばらしい仏教徒であり、また仏教の教えのもとに国を治めておられることを深く感激し、これからもこの国の方々がますます幸せとなり、この国がますますの発展を遂げることを確信いたしました。日本もこのようになってほしいとつくづく思いました。

日本からも約300名の皆様と共にこの会議に参加させて頂きまして、皆様方の大いなる豊かな心また、仲良くしようという心、本当に受け取らせて頂きました。

これからも日本として、またがんばらせて頂きます。

よろしくご指導お願い申し上げます。

今日はありがとうございました。

浅川重美、ITRI日本センター会長

《結びのスピーチ》
西暦 2009 年／仏暦 2552 年 5 月 6 日
国連アジア太平洋センター本会議場
プラ・ダマコサジャン博士

20 年に及ぶ熟慮と懸命な作業が、文書の形で一つにまとまりました。バンコク宣言です。世界中の人々、特に、ウェーサクの日を認めてくださった国連の皆さんの期待に応えるものと思いません。多くの仏教徒が会合を重ねて作り上げました。私たちの努力を積極的に応援してくださった国連も認めてくださいました。これからバンコク宣言の本文をお知らせしますが、これを私たちの正式な宣言にしようと考えています。

2009 年、仏暦 2552 年、5 月 4 日から 6 日に、王立マハチュラロンコーン大学のワン・ノイ・アユタヤ・メインキャンパスのナコンプラトムでの、そして、バンコクにある国連会議センターでの伝統仏教会議に、71 の国と地域から参加した私たちは、タイ王室政府とタイ最高サンガ評議会がこの会議を寛大に支持してくださったことに対して、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

私たちは次の決議をしました。

1999 年 12 月 15 日、国連総会第 54 回会議において承認された決議に基づき、2000 年以降、私たちは 5 月の満月の日に、国連本部、および、国連の地域事務所において、国際的に認められた形で(ウェーサクの日を)お祝いしております。

国連で、全ての仏教徒は合同で(ウェーサクの日を)お祝いしておりますが、私たちは、2004 年以来、国連ウェーサクの日を主催して下さっているタイ国王陛下の深いお考えと果たされているその重要な役割に感謝しております。私たちはまた、2008 年にハノイで行なわれました国連ウェーサクの日の成功を喜んでおります。

現在確固とした活動をしている仏教組織、個人、仏教以外の宗教、市民社会との相互理解と協力をさらに強め、対話をさらに進めてまいります。

仏陀の智慧と慈悲の教えに基づいた平和のメッセージを広めていくことが決意されました。

仏教に関わる様々な問題、そして世界的危機を前にして、会議は次のことに関して合意しました：

一つ：世界的な経済危機が各国に与えた未曾有の衝撃を認識し、また、経済的、政治的、環境的、社会的危機と各地域(にある様々な問題)との間に関連があることを意識する。

精神的な意識を高めようと私たちが倍旧の努力をする。それが現在の地球規模の危機に対処する助けとなるだろう。

二つ：緊急に社会的責任を果たすために、金融・経済システムを信頼しうる、かつ、思いやりのあるものにしていく。金融・経済システムがそのようなものになれば、高潔、勤勉、調和、人に害を与えない心、思いやりは今より改善され、社会的、経済的安全保障と持続可能な発展が達成されるであろう。

三つ：平和を発展させ、社会を調和のあるものにし、また、紛争を解決するために、良き統治を行なうように、そして、倫理的、社会的正義を維持するように励ます。

四つ：この世界ではあらゆるものが相互に結びついているので、自分たちの行動が何を生み出すのかに注意を払い、地球という惑星を守るために何が必要かを常に考える。権威に関する仏教の考えをより意識するよう活動する。

五つ：よく使われている仏教経典を比較、参照して適切に使い、より多くの人々に仏教の根本的な考え方をよりよく理解してもらうように努力する。仏教の経典は、上座部仏教、大乘仏教、密教と豊かにあり、今日の社会が必要としているものに十分応えてくれる。

六つ：学問的な協力、学問の方法やその精神の交流、合同での資金集めを推進する IABU、国際仏教徒大学協会のボトムアップ型の構想にますます多くの大学が参加し、IABU がさらに発展するように努力する。

七つ：仏教研究における主要なデジタルプロジェクトを話し合ったハノイでの国連ウェーサクの日の会議の報告に従って、IABU のエレクトリック資源グループの画期的な仕事を推し進める。仏教の精神的データを共有しようとする強い思いに応じて、16 の国の 23 の研究機関から第一線の専門家が結集し、共通の作業プランを作って、みんなが共通してアクセスしうる、初めての科学的な中国の、チベットの、モンゴルの …… を発展させ、みんなのために統一する。

八つ：以前は IOC、国際組織委員会という名であった ICUNDV、国連ウェーサクの日国際評議会の法人組織としての登録を支持する。

九つ：2010 年、仏暦 2553 年 UNDV の開催地はバンコクの国連センターで、タイ国と日本が共催する。

皆さん、以上です。

大きな拍手で、お祝いしていただきたいと思います。（拍手）

以上のことは、関係した全ての方の献身と懸命な働きで達せられました。

いくつか名前を挙げさせていただきます。私の大学である、王立マハチュラロンコーン大学のスタッフとボランティアの諸君。会場の皆さんが彼らの歓迎振りと働き振りに感謝しておられるなら、どうぞ彼らに大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

私たちは、タイ王室政府、タイ最高サンガ評議会、タイ仏教局、仏教(協会)、マハマクート仏教大学、また、他にも幾つかの研究機関のサポートを得ました。

しかし、もっと多くのサポートがありました。この祝賀組織が本当に国際的に活動できたのは、各国の皆様が準備に参加してくださったからに他なりません。

世界中から仏教学者、仏教指導者の皆さんがバンコクに来て、準備作業をしてくださいました。彼らはこの1年、本当に一生懸命働いてくださいました。

彼らは最初、IOC、国際組織委員会の名の下で活動しました。それから、ICUNDV、国連ウェーサクの日国際評議会の実行委員会の委員に変わりました。

ICUNDVは、タイの文化省に登録された法人となりました。このような次第で、ICUNDVは皆様が行なうあらゆる決定を実行する組織となったのです。ですから、皆様は、自信を持って一緒に活動し、共通の仏教プロジェクト、仏教連盟、仏教カタログなどといった様々な団体・活動を立ち上げることができます。

ICUNDVは永続的な国際組織になったのですから、私たちはICUNDVに自信を持っています。私たちは、ICUNDVという組織、国際的団体の名の下で活動したのです。

ICUNDVの実行メンバー、組織メンバーの方々に、もう一度大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

さて、次回、2010年に(UNDVの)ホスト役を務める日本、ボランティアとしてタイと共催して下さる日本の皆さんがこの会場にいらっしゃいます。ITRIの日本代表の方をご紹介したいと思います。どうぞお立ちになって、皆さんに来年のホスト役のお姿をご披露下さい。お願いいたします。(拍手)

どうもありがとうございます。

それではこれでセレモニーを終わらせていただきます。(拍手)